

# 国際ペン東京大会 2010

## 海外招待作家一覧

### 国際環境文学者会議とセミナー

2010年4月22日

国際ペン東京大会実行委員会 事務局

#### 国際環境文学者会議

バンダナ・シバ (9月29日 京王プラザホテル 基調講演)

#### セミナー

ジャクリーン・ウィルソン	(9月23日 早稲田大学 子どもの本委員会)
イ・オクベ	(9月23日 早稲田大学 子どもの本委員会)
グレアム・ギブソン	(9月24日 早稲田大学 実行委員会)
シャーマン・ラポカン	(9月24日 早稲田大学 実行委員会)
シェリー・モーリス	(9月24日 早稲田大学 実行委員会)
フレデリック・エル・ショット	(9月26日 早稲田大学 子どもの本委員会)
ジャン・ポール・ジョー	(9月27日 京王プラザホテル 環境委員会)
カレン・テイ・ヤマシタ	(9月27日 京王プラザホテル 女性作家委員会)
トリン・ミンハ	(9月27日 京王プラザホテル 女性作家委員会)
馬建	(9月28日 京王プラザホテル 実行委員会)
ジェーン・ライチホールド	(9月28日 京王プラザホテル 実行委員会)
イワン・ボンダレンコ	(9月28日 京王プラザホテル 実行委員会)
リー・ガーガ	(9月28日 京王プラザホテル 実行委員会)

#### その他

環境映画祭 (9月23日 早稲田大学 環境委員会) 岩崎雅典

以上

## 国際環境文学者会議

9月29日、30日の二日間、京王プラザホテルで開催される。

「環境と文学」について、基調講演者として、インドから思想家・環境活動家であるバンダナ・シバ氏を招き、「環境と文学 ―今、何を書くか」および「環境と文学 ―言葉の多様性」の分科会と全体会合において、議論を深める。

全体会合、分科会において、国際ペン大会に参加した各国の作家が発言する予定。日本ペンクラブ側からは浅田専務理事による基調講演ならびに会員作家による発言を行なう。

会議の議長には国際ペンの元会長オメロ・アリジス氏、日本ペンクラブの堀常務理事が共同であたる。

## 基調講演・海外ゲスト

### **バンダナ・シバ (Vandana Shiva)**

物理学者、環境科学者、平和運動家。環境問題、女性解放問題、ジェンダー、グローバル化に関し、メッセージを発信し続ける女性思想家。1993年、ライト・ライブラリーフード賞受賞。「科学・技術・環境科学のための研究基金」理事。

『緑の革命とその暴力』（浜谷喜美子・訳、日本経済評論社）、『生きる歓び——イデオロギーとしての近代科学批判』（熊崎實・訳、築地書館）など多数の著書がある。

## セミナー

【子ども・環境・文学—そして未来へ】

9月23日 早稲田大学 子どもの本委員会

[概要]

子どもにとって「環境」とは自然環境のみならず、家庭、学校などの日常生活も、大人示す成長の指標も含まれます。なぜなら、子どもは大人が用意した環境によって育てられる存在だからです。

子どもの本は読者に、彼らを取り巻く環境を時にリアルに示し、時に異空間でのひとときの楽しみを提供してきました。

そこでこのシンポでは、子どもの日常感覚に即した作品でティーンに熱い支持を受けるジャクリン・ウイルソンさん、韓国の文化を飾ることなく淡々と描く絵本作家のイ・オクベさん、独創的な異空間を構築することで物事の本質にダイレクトに迫っていく上橋菜穂子さん。三者三様のアプローチをしている作家をパネラーとしてお招きし、「子どもの環境」像を語り合っていたかどうかと思います。

彼らは、子どもの環境をどう考えどう描こうとしているのか？

司会は、「児童文学書評」主宰者であり、絵本からヤングアダルトまで、内外の子どもの本に詳しい、作家のひこ・田中さんです。

<パネラー>

**ジャクリン・ウイルソン(Jacqueline Wilson)**

1945年イギリス生まれ。ジャーナリストを経て作家に。「g i r l s シリーズ」などで世界中の女の子から圧倒的支持を受ける。児童書を中心に英国で約90冊以上の本を出版、全世界で発行累計2500万部以上。チルドレンズブック賞、スマーティーズ賞、ガーディアン賞など受賞

**イ・オクベ (い・おくべ)**

1960年生まれ。弘益大学校美術大学彫像科卒業。労働者美術・民衆美術運動から絵本制作に入った韓国の民主化運動の世代を代表する作家の一人。邦訳されている絵本に、『ソリちゃんのチュソク』（セーラー出版）、『蚊とうし』（アートン新社）、『せかいいちつよいおんどり』（新世研）がある。1997年に、『せかいいちつよいおんどり』で韓国人作家として初めてBIBC（ブラティスラバ国際イラストレーションビエンナーレ）に選ばれた。近年は労働者問題とともに環境問題にも強い関心を寄せており、非武装地帯に思いがけず保全された自然環境を描いた作品も間もなく刊行される予定。

**上橋 菜穂子 (うへはし なほこ)**

1962年生まれ。立教大学文学部卒業。同大学院博士課程修了。川村学園女子大学児童教育学科教授。1989年、『精霊の木』で児童文学作家としてデビュー。『月の森に、カミよ眠れ』（1991年）で日本児童文学者協会新人賞を受賞。『精霊の守り人』（1996年）で、野間児童文芸新人賞・

産経児童出版文化賞ニッポン放送賞を受賞。『闇の守り人』で第40回日本児童文学者協会賞、〈守り人シリーズ〉で第25回巖谷小波文芸賞、『神の守り人』で小学館児童出版文化賞、『狐笛のかなた』で野間児童文芸賞受賞、産経児童出版文化賞推薦などを受賞。日本児童文学者協会会員。文学博士。

#### ひこ・田中 (ひこ・たなか)

1953年生まれ。同志社大学文学部卒業。1990年『お引越し』で第1回椋鳩十児童文学賞受賞。同作が相米慎二監督により映画化される。『ごめん』で第44回産経児童出版文化賞 JR 賞受賞。富樫森の手で映画化される。著書に『カレンダー』『大人のための児童文学講座』。共著『トゥインクル』、『十二歳からの読書案内』、『子どもの本ハンドブック』、『子ども・大人』他。「児童文学書評」主宰 <http://www.hico.jp/>

#### 【文学にみる環境正義と現代的意義】

9月24日 早稲田大学 大会実行委員会

##### 〔概要〕

〈環境正義〉は、自然の生態系を守ることと社会的正義の同時追及の必要性を示す概念として今日注目されている。この環境正義の概念を文化・文学に検証し、グローバリゼーションの進展と共に、地球環境への脅威が増す今日において、現代の作家たちが環境問題とどのように対峙し、作品の中でどう扱っているかを討論する。

環境正義の概念は、1980年代に多民族国家であるアメリカの社会的背景をもとに生れた考え方で、環境的人種差別主義への批判運動として展開した環境正義運動に端を発している。その後の地球環境問題への関心の高まりに伴い、自然はもちろん、人類をも破壊しかねない問題を扱った文学作品が昨今多く創作されている。

このセミナーでは、「世界希少鳥類保護団体」の創設者のひとりで、人間と鳥との関係の著作があるギブソン氏と、地球破壊が進む中、母なる大地と海洋との共生の大切さを説く先住民作家のラポガン氏、モリス氏に「文学にみる環境正義と現代的意義」を語ってもらう。(佐藤アヤ子記)

##### 〈パネラー〉

#### グレアム・ギブソン(Graeme Gibson)

1934年生まれ。カナダの小説家、批評家。ウエスタン・オンタリオ大学で学ぶ。1970年代初期からカナダの文化形成に多くの影響を与えてきた。カナダ作家組合を立ち上げ、その後カナダペン会長を歴任。1969年に初めての小説 *Five Legs* を出版。73年にはM. ローレンス、M. アトウッド、A. マンローなど現代のカナダ文学界を形成してきた作家たちをインタビューした *Eleven Canadian Novelists* を出版。本書はインタビュー本の古典となっている。

バードウォッチャーで、環境問題に活発な運動を行っている氏は *The Bedside Book of Birds* (2005) で、「鳥に関する雑録」として人間と鳥との尊い関係を古今東西の作品から示してい

る。『The Bedside Book of Birds』の続編でもある「獣に関する雑録」『The Bedside Book of Beasts』(2009)では、捕食するものとその餌食となるものの複雑な関係が時を通じて地球上の動物の生活を定義してきたという論拠を文献から示唆している。多作家ではないが、伴侶の M.アトウッドと共に、現代のカナダ文学界を支えている作家である。(佐藤アヤ子記)

シャーマン・ラポカンシャマン・ラポガン (Shaman Rapongan)

1957年、蘭嶼島(台東県蘭嶼郷)紅頭村生まれ。漢名は施努来。1973年に蘭嶼国民中学を卒業、台東高級中学に進学するために蘭嶼を離れた。高級中学卒業後は、原住民族子弟枠での大学推薦入学を辞退し、1980年に淡江大学フランス語科に入学した。とびうお漁で生活するタオ(ヤミ)族という原住民の出身。中国語で創作するが、台湾本島での暮らしのなかで、タオ族としてのアイデンティティを模索し、現在は、故郷に戻り、タオ語の保存にも取り組む。

代表作

『冷海情深』『黒色の翅膀』(邦訳「黒い胸びれ」、草風館)『海浪的記憶』など

シェリー・モーリス (Shellie Morris)

1965年生まれ。オーストラリアのアボリジニのシンガーソング・ライター。ノーザン・テリトリー(北部準州)のカカドゥに生まれる。カカドゥはアボリジニの聖地。太古の昔に描かれたアボリジニの壁画が多く残されている。誕生後、シェリーはシドニーの白人家庭の養女となる。少女時代は音楽に没頭し、フルートやピアノやオルガンを勉強。聖歌隊で歌い、10代の終わりにはオペラの訓練も受けた。しかし、1997年にノーザン・テリトリーの州都ダーウィンに移り住むことを決意。それは自分のルーツを知ることと、本当の家族と会うためであった。

「昔のように、音楽を通して物語を伝える」というシェリーのバラッドは、魂のこもった不思議な感覚を聴衆に与え、先住民社会の出来事をこえて、世界中に多くのことを語りかけてくれる。

2010年2月には、バンクーバーで開催された冬季オリンピック行事で、“Swept Away”を歌う。現在3枚目のアルバムを準備中。(佐藤アヤ子文責)

司会

茅野裕城子・佐藤アヤ子

【マンガとアニメは環境をどう描いてきたか？

—現代マンガのパイオニア・手塚治虫の作品から】

9月26日 早稲田大学 子どもの本委員会

【趣旨】

いまや世界中で人気の日本のマンガやアニメは、さまざまな社会的な問題にも多様にアプローチしてきました。環境をテーマにしたマンガもたくさんありますが、アニメ作品でも、宮崎駿監督の「風の谷のナウシカ」や「もののけ姫」、第81回アカデミー賞短編アニメーション賞受賞で話題になった「つみきのいえ」(加藤久仁生監督)など、これまでたくさん作られてきました。

このフォーラムでは、現代マンガの先駆者でもあり、日本のテレビアニメの創始者でもある手塚治虫が、環境をテーマにして何をどのように表現してきたかを、彼が残したマンガやアニメ作品を通して検証します。

ゲストは、アメリカ在住のマンガ研究家フレデリック・ショットさん、マンガ家の里中満智子さん、手塚プロ社長で日本動画協会理事長の松谷孝征さん。

はじめに手塚治虫の短編アニメ作品「森の伝説」を上映し、環境をテーマにしたマンガ作品を紹介しながら、3人の方々に手塚が次世代に伝えたかったものは何かを語っていただきます。

### フレデリック・L・ショット(Frederik L. Schodt)

1950年アメリカ生まれ。父親が外交官をしていた丈高校生の頃に来日し、国際基督教大学に留学し、日本のマンガに関心を持つ。手塚治虫「鉄腕アトム」「火の鳥」、中沢啓治「はだしのゲン」、池田理代子「ベルサイユのバラ」などの多くのマンガ作品を英語に翻訳。著書に「ニッポンマンガ論」など。1983年、日本漫画家協会のマンガ・オスカー賞を受賞。2000年には、日本マンガの海外紹介の功績により、手塚治虫文化賞特別賞、2009年には旭日小綬章を受章。現在、サンフランシスコに在住。

### 里中満智子(さとなかまちこ)

マンガ家。1948年1月大阪生まれ。1964年(高校2年生)に「ピアの肖像」で第1回講談社新人漫画賞受賞、デビュー。代表作に「あした輝く」「アリエスの乙女たち」「海のオーロラ」「あすなろ坂」「狩人の星座」「天上の虹」など多数。2006年に全作品及び文化活動に対し日本漫画協会賞文部科学大臣賞受賞。社)日本漫画家協会常務理事/マンガジャパン事務局長/大阪芸術大学キャラクター造形学科教授等

### 松谷孝征(まつたにたかゆき)

1944年横浜生まれ。実業之日本社にて雑誌漫画編集者として手塚治虫の担当編集者を経験後、73年手塚治虫のマネージャーとして、(株)手塚プロダクションへ入社。85年4月同社代表取締役社長になり、現在に至る。日本動画協会理事長。カラー版「鉄腕アトム」、「ブラック・ジャック」等数多くのTVシリーズや「火の鳥」「ジャングル大帝」等、手塚治虫原作の劇場版アニメーション映画のプロデューサー。中国人民大学徐悲鴻芸術学院客員教授。吉林芸術学院動画学院客員教授。

#### 【食育と環境】

9月27日 京王プラザホテル 環境委員会

<パネラー>

### ジャン・ポール・ジョー(Jean Paul Jau)

監督・プロデューサー。国立ルイ・リュミエール大学卒業後、1979年より監督として多くのテレビ番組の制作を行う。

1984年のCanal+ (フランスの大手ケーブル放送局) の設立当初より、主なスポーツ番組の制作と中継を担当し、スポーツ映像に革命をもたらす。92年には自身の制作会社 J+B Sequences

を設立。『羊飼いの四季』（“Les quatre saisons du berger”）、『マレーヌとオレロンの四季』（“Quatre saisons entre Marennes et Oleron”）など移りゆく四季の中で織り成される人々の暮らしを追ったドキュメンタリーを制作し、2004年自らが結腸ガンを患ったことを機会に、「食」という生きるための必須行為を取り巻く様々な事象を振り返り、本作「未来の食卓」の製作にいたる。

#### 【動物と人間の物語】

9月27日 京王プラザホテル 環境委員会

〈パネラー〉

**岩崎雅典（後掲）**

#### 【越境する作家】

9月27日 京王プラザホテル 女性作家委員会

〈パネラー〉

**カレン・テイ・ヤマシタ (Karen Tei Yamashita)**

アメリカ合州国オークランド出身の日系三世。英語で書く小説家。ブラジル、北米ロサンゼルス、日本等に滞在・旅行しながら取材。エスニシティや地域性、ジャンルを越えた独創的な創作活動を行う。現在はカリフォルニア大学サンタクルース校で文学を教える。

American Book Award。Janet Heidinger Kafka Award。The Chancellor's Award for Diversity (2009)。

作品：『熱帯雨林の彼方へ』（1990、邦訳は白水社刊）、『ぶらじる丸』（1992）、『オレンジ回帰線』（1997）、『サークルKがめぐる』（2001）

**トリン・ミンハ (Trinh T. Minh-ha)**

ベトナム系アメリカ人の、ドキュメンタリー映画監督、詩人、小説家、フェミニズム／ポストコロニアリズムの思想家。

1953年ハノイ生まれ。サイゴンで育ち17歳でアメリカに移住。

カリフォルニア大学バークレー校映画学・女性学教授。

Films

・ Night Passage (98mins, Digital, 2004) (fiction), The Fourth Dimension (87 mins, Digital, 2001), A Tale of Love (108 mins, 1995) (fiction), Shoot for the Contents (102 mins, 1991), Surname Viet Given Name Nam (108 mins, 1989), Naked Spaces - Living is Round (135 mins, 1985), Reassemblage (40 mins, 1982)

Books

・ The Digital Film Event (Routledge 2005), Cinema Interval (Routledge 1999), Drawn from African Dwellings (in coll. with Jean-Paul Bourdier, Indiana University Press 1996), Framer Framed (Routledge 1992), When the Moon Waxes Red. Representation, gender and

cultural politics (Routledge 1991)

Out There:

Marginalisation in Contemporary Culture (Co-editor with Cornel West, R. Ferguson & M. Gever. New York: New Museum of Contemporary Art and M.I.T. Press, 1990)

· Woman, Native, Other. Writing postcoloniality and feminism (Indiana University Press 1989)

· En minuscules (book of poems, Edition Le Meridien 1987)

· African Spaces - Designs for Living in Upper Volta (in coll. with Jean-Paul Bourdier, Holmes & Meier 1985)

· En art sans oeuvre, International Book Publishers, Inc.

Installations

· The Desert is Watching (in coll. with Jean-Paul Bourdier, 2003, Kyoto Art Biennale)

· Nothing But Ways (in coll. with L. M. Kirby, 1999, Yerba Buena Center for the Arts, San Francisco)

· L' Autre marche (The Other Walk) In collaboration with Jean Paul Bourdier, Musée du Quai Branly, Paris, France 9 Juin 2006 -2009

Music

· Poems. Composition for Percussion Ensemble. Premiere by the Univ. of Illinois Percussion Ensemble, Denis Wiziecki, Director. 09 April 1976.

· Four Pieces for Electronic Music. 1975 Performances at the Univ. of Illinois.

The recipient of several awards and grants (including the "Trailblazers" Award at MIPDOC, Cannes; the AFI National Independent Filmmaker Maya Deren Award, fellowships from the Guggenheim Foundation, the National Endowment of the Arts, the Rockefeller Foundation, the American Film Institute, The Japan Foundation, and the California Arts Council), her films have been given thirty-six retrospectives in the US, the UK, Spain, the Netherlands, Slovenia, France, Germany, Switzerland, Austria, Japan and Hong Kong, and were exhibited at the international contemporary art exhibition Documenta 11 (2002) in Germany. They have shown widely in the States, in Canada, Senegal, Australia, and New Zealand, as well as in Europe and Asia (including in Italy, Belgium, Spain, Sweden, Finland, Japan, India, Taiwan, Jerusalem,. Reassemblage was exhibited at The New York Film Festival (1983) and has toured the country with the Asian American Film Festival among other festivals. Naked Spaces received the Blue Ribbon Award for Best Experimental Feature at the American Int'l. Film Festival and the Golden Athena Award for Best Feature Documentary at the Athens International Film Festival in 1986; it toured nationally and internationally with the 1987 Biennial of the Whitney Museum of American Art. Surname Viet Given Name Nam has received the Merit Award from the Bombay International Film Festival, the Film as Art Award

from the Society for the Encouragement of Contemporary Art (SF Museum of Modern Art) and the Blue Ribbon Award at the American Film and Video Festival. *Shoot for the Contents* won the Jury's Best Cinematography Award at the 1992 Sundance Film Festival and the Best Feature Documentary Award at the Athens International Film Festival, and toured internationally with the 1993 Biennale of the Whitney Museum. *A Tale of Love*, has shown internationally in over twenty-four film festivals, including Berlin and Toronto. *The Fourth Dimension* (Locarno, Viennale, Edinburgh, London) and *Night Passage* continue to exhibit widely (UK, Austria, Spain, Japan, Korea, Shanghai).

Trinh Minh-ha has traveled and lectured extensively—in the States, as well as in Europe, Asia, Australia and New Zealand—on film, art, feminism, and cultural politics. She taught at the National Conservatory of Music in Dakar, Senegal (1977-80); at universities such as Cornell, San Francisco State, Smith, and Harvard, Ochanomizu (Tokyo); and is Professor of Women's Studies and Rhetoric (Film) at the University of California, Berkeley.

【母国語以外で書く作家】

9月27日 京王プラザホテル 実行委員会

〈パネラー〉

**馬建 (Ma Jian)**

1953年、青島生まれ。いろいろな職業を転々とし、30歳のとき、3年かけて中国国内を流浪し「RED DUST」を書いた。1987年、彼の著作が禁書になるとともに、香港に脱出、そこで、10年暮らす。後に、この作品で、2002年トマス・クック旅行文学賞を得る。以降、ロンドンに。「The noodle maker」をはじめ、多くの著作が、英語を中心に12ヶ国語に訳される。2008年に書かれた天安門事件を扱った「Beijing Coma」は英語圏で複数の賞を得た。中国語で執筆するが、中国大陸では、出版は許されていない。

【短歌 — TANKA】

9月28日 京王プラザホテル 実行委員会

[要旨]

日本の短歌に造詣の深いアメリカの詩人、ジェーン・ライチホールド氏の講演と、歌人篠弘氏との対談。第二次世界大戦後の短歌界において、いかに女性歌人が登場し、魅力ある作品を発表したか、短歌の興隆に寄与したかを具体的に解明する。

〈パネラー〉

**ジェーン・ライチホールド (Jane Lychold)**

オハイオとカリフォルニアで美術・と文学を様々な大学で学ぶ。フリーランスのライターとして様々な雑誌に寄稿。日本の古典詩の翻訳・研究に従事。主な著作：magazines *Mirrors International Haiku Forum* (1987 - 1995) and *Lynx* (1992 - present), AHA Books, (founded

in 1987 with over 50 books in paper and digital form), AHApoetry.com (since 1995) and AHAforum (since 2005).

## 篠弘 (しのひろし)

定型詩である短歌の実作者、その評論家。1933年、東京生まれ。51年、早稲田大学入学とともに、歌誌「まひる野」に入会。現在、その代表者。土岐善麿、窪田章一郎に師事。55年小学館に入社。『日本大百科全書』『昭和文学全集』をはじめとする書籍の編集。取締役出版本部長。退職後、愛知淑徳大学文化創造学部長。現代歌人協会前理事長。日本現代詩歌文学館長。日本文芸家協会副理事長、毎日新聞歌壇選者、NHK ラジオ短歌講師、宮中歌会始の選者など。

55年に「卒業期」により第6回半田良平賞。第一歌集『昨日の絵』所収「花の渦」により80年に第16回短歌研究賞。『近代短歌論争史』全二巻により82年に第5回現代短歌大賞。『自然主義と近代短歌』により92年に文学博士。第四歌集『至福の旅びと』により95年に第29回迢空賞、99年に紫綬褒章。第五歌集『篠弘』により2000年に第15回詩歌文学館章。05年に旭日小綬章。07年に『篠弘全歌集』と第七歌集『緑の斜面』により第48回毎日芸術賞を受ける。主著『現代短歌史』全三巻。

### 【HAIKU：自然と内なる世界 (HAIKU: Nature and the Inner Land)】

9月28日 京王プラザホテル 実行委員会

#### 〔要旨〕

俳句は今や世界文学の一形式となったが、詩としてのその本質はいかなるものであろうか。海外からの講師をまじえて、芭蕉から現代日本の俳句や世界のHAIKUまで、その深奥なる世界を探る。

芭蕉から300余年、子規の俳句革新からも100年が過ぎたが、俳句は衰えることを知らない。我が国では子規以降、自然を主題に据えた虚子による花鳥諷詠をめぐって発展する一方、主観に重きを置いた新興俳句などの反伝統運動が戦時下で弾圧を受ける事件も起こった。それでも戦後には新たな発展期を迎え、この21世紀においても伝統精神を継承した現代の詩形としてさらなる発展を続けている。海外に目を向けてみれば、明治期には日本に滞在したフランス人やイギリス人によって、俳句は初めてヨーロッパにも紹介され、20世紀後半からは世界各国でもそれぞれの母国語によって多くの作品が書かれている。

今回の俳句セッションでは、海を渡って広まった俳句の詩的本質を探る。ウクライナからイワン・ボンダレンコ氏（俳文学・日本古典文学研究）、アメリカからリー・ガーガ氏（元アメリカ俳句協会会長）という世界の俳句の第一人者を招き、世界の俳句状況はもとより、彼らにとって俳句とはいかなる詩なのか語ってもらう。日本からは有馬朗人氏（国際俳句協会会長、元東大総長）、高市順一郎氏（日本英米詩歌学会会長、文学博士）が俳句の本質について論じる。まとめ役として加藤耕子（国際俳句交流協会理事）と木村聡雄（同前）が進行を務める。このセッションでは、世界で読まれ、また書かれている俳句の詩としての魅力が浮かび上がってくるであろう。また俳句と深いつながりのある自然という観点から、大会のテーマである環境と俳句との係わり

についても考察を加える予定である。なお、俳句リーディングも予定している。

<パネリスト>

### イワン・ボンダレン (Ivan Bondarenko)

ウクライナのチェルニゴブ生まれ。

キエフの国立タラス・シェブチェンコ大学教授 (中国語・韓国語・日本語)。

国立科学アカデミー東洋学研究所・教授・研究。ウクライナ日本文化友好協会会長。天理大学前教授 (ロシア学)

ウクライナ語・ロシア語、英語、フランス語、日本語に堪能。

His specialization is Oriental Studies (Japanese Language, Literature, Culture and Civilization); Russian-Japanese Linguistic Correlations; Japanese Classical Poetry.

His principal publication includes: Anthology of Japanese Poetry. Haiku. XVII-XX c. - *Translated in Ukrainian and compiled by I. Bondarenko*; Hyaku-nin isshyu (Anthology of Japanese Poetry, 1235). - *Translated in Ukrainian by I. Bondarenko*; Ukrainian-Japanese Dictionary (*co-author*); Japanese-Ukrainian Pocket Dictionary (*co-author*).

### リー・ガーガ (Lee Gurga)

元米国俳句協会会長。日本以外では最も古く権威のある俳句雑誌「*Modern Haiku (USA)*」編集長。

His books of haiku, *In & Out of Fog* and *Fresh Scent*, were awarded “First Prize” in the Haiku Society of America Book Awards; his *Haiku: A Poet’s Guide* was recognized by the HSA as the “Best Book of Criticism” for 2004. He has assisted Japanese haiku poet Emiko Miyashita in the translation of four books of Japanese haiku, two of which were recognized with a “Best Book of Translations” award by the Haiku Society of America. He has been awarded an Illinois Arts Council Poetry Fellowship for his work in haiku. In 2006, he received the Japan-America Society of Chicago’s Cultural Achievement Award. He is currently editor of Modern Haiku Press (USA).

### 有馬 朗人 (ありま あきと)

1930年、大阪市住吉区(現、東住吉区)生まれ。

東京大学理学部卒。同大学院修了。理学博士(原子核物理学専攻)。アメリカニューヨーク州立大学ストーニーブルック校教授。東京大学教授、理学部長を経て、1989(平成元年)年、東大総長。その籐、理化学研究所理事長、参議院議員、文部大臣、科学技術庁長官(兼務)。

日本科学技術振興財団会長(科学技術館館長)。武蔵学園長を歴任。文化功労者。旭日大綬章。功労大十字章(ドイツ)、レジオン・ド・ヌール勲章、大英勲章、国際科学技術協力賞(中国)、グラスゴー大学他11大学より名誉博士。

45年より作句。46年「ホトトギス」初入選。50年、山口青邨<sup>せいそん</sup>に師事、「夏章」入会。53年、同誌同人。90年、「天為」<sup>てんい</sup>創刊、主宰。国際俳句交流協会会長。

句集に『母国』(1972 春日書房)、『知命』(1982 牧羊社)、

『天為』(1987 富士見書房：第27回俳人協会賞)、『耳順』(1993 角川書店)、  
『立志』(1998 同前)、『不稀』(2004 同前：第7回加藤郁乎賞)、  
『有馬朗人』(2002 花神社)、『分光』(2007 角川学芸出版：第3回詩歌句大賞)、  
『鵬翼』(2009 ふらんす堂)。

著書に、『現代俳句の一飛跡』(2003 深夜叢書社)。

高市順一郎 (たかち じゅんいちろう)

1939年、徳島生まれ。広島大学大学院修士課程修了。文学博士。桜美林大学助教授を経て同大学文学部教授。1979-80年英国ケンブリッジ大学客員研究員、1992-93年米国イェール大学大学院客員研究員。現在桜美林大学名誉教授、日本英米詩歌学会会長、『ジャパン・ポエトリー・レビュー』編集長。日本国際ペン・クラブ、日本文芸家協会、日本現代詩人会、日本国際比較文学学会会員。

著書に、『シルヴィア・プラス——愛と名声の神話』、『詩の形象と霊知——シェイクスピア、キーツ、ポー、ワイルド、エリオット』(思潮社)など。訳書にリチャード・キャヴェンディッシュ『アーサー王伝説』(晶文社)などがある。詩集に『愛の在処』、『日の歌、風の歌』、『宇宙鏡』、『樹の中の鐘』(思潮社)など多数。主要論文に、「古典詩歌における〈樹〉と〈美人〉のフィギュール——中国の詩物語と日本の歌物語」『比較文学』(1998. 12)、『Real Splendour of Fuga 風雅 - “Trees,” the “Madonna,” the Moon,” and “Dream of BASHO’ s HAIKIU 芭蕉俳句” ’ (2007, 未完)など多数。

## その他

環境映画祭（9月23日 早稲田大学 環境委員会）

コーディネーター

### **岩崎雅典（いわさき まさのり）**

映画監督。1940年秋田県男鹿市に生まれる。1959年秋田県立秋田高校卒業。1964年早稲田大学教育学部社会科学科卒業。1970年以降、北斗映画、岩波映画製作所などで主に野生動物の記録映画やテレビ番組の演出に携わる。1981年（株）群像舎を設立、代表となり現在に至る。

群像舎は、おもに野生動物、地球環境をテーマに、記録映画、テレビ番組を制作しています。設立は1981年12月15日。テレビ番組「いきものばんざい」で意気投合したフリーランスのスタッフが自主映画をつくるために集いました。

以来20余年、伝統文化や習俗に迫った「最後の丸木舟」「又鬼」から、野生動物の生態を真摯に見つめた「ニホンザル物語 家族」「イヌワシ 風の砦」まで、人間、動物、自然の様々な姿を長期にわたり取材し、記録映画として発表してきました。ネパール・ヒマラヤ山系で“幻”の豹を追った「雪豹 Snow Leopard」「クロウサギの島」「広がれアサザの夢」最新作「平成熊嵐あらし」を含め20本を数えます。

また、「野生の王国」（毎日放送）、「生きもの地球紀行」「地球！ふしぎ大自然」（NHK）、「素敵な宇宙船地球号」（テレビ朝日）など、テレビ番組にも企画・制作として多く参加しています。

### **「環境映画」9月23日早稲田大学 上映作品（予定）**

- 10：00 1、「イヌワシ 風の砦」（70分・1991年） ナレーター 上条恒彦  
日本に生息するイヌワシは現在、わずか500羽ほど。  
幻といわれたイヌワシの生態を7年間に渡り追跡。“兄弟殺し”や独特の共同ハンティングなど、絶滅に瀕するイヌワシの謎の生態を描いた作品。  
\*動物愛護コンクール協会賞
- 11：15 2、「クロウサギの島 奄美の希少動物たち」（45分・1996年）  
ナレーター 石丸謙二郎  
九州の南端に連なる亜熱帯の島々。その南西諸島の一角にある奄美大島には固有の生きものが多い。国の特別記念物アマミノクロウサギを始め、ケナガネズミ、ルリカケス、オオトラツグミなどレッドデータブックに名を連ねる希少種が生息する。だが、今この島にも開発の波が押し寄せる。自然環境の保護の有様を考える作品。  
\*第51回毎日映画コンクール記録文化映画賞、第20回モンタナ国際野生生物映画祭 動物保護メッセージ名誉賞、他
- 12：10 3、「ニホンザル モズ 26年の生涯」（52分・1998年）  
ナレーター 森本レオ  
生まれながらにして両手両足に障害をもったニホンザル・モズと母子の物語り。モズが

生まれた 1970 年代、日本各地の野猿公園でも手足に障害をもつサルが次々に産まれ話題となる。餌付けのエサが要因ではないかと疑われた。7 歳にして初めて子どもを産んだモズは不自由な体で子どもを育て、19 年の生涯で多くの子孫を残した。だが、どの子孫にも障害は現れなかった。ハンディを負ったモズの生きざまを記録した作品。

1998 年厚生省 中央児童福祉審議会 推薦文化財、第 40 回科学技術映像祭 科学技術長官賞、他

13 : 30 (対談)

14 : 00 4、「サシバ 海を渡るタカ」(35 分・1994 年) ナレーター 宮崎美子

東南アジア方面から日本の本州に渡ってくる中型のタカ、サシバは低山や丘陵地で子育てをする夏鳥。いわゆる里山で杉や松の木に巣を作り、カエルやヘビなど小動物を餌にヒナを育てる。子育てを終えたサシバは秋、家族で再び南の国々を目指す。何万という数で。

食物連鎖の頂点に立つ猛禽類は環境指標動物といわれるが、日本だけでなく越冬地の東南アジアでも数が減りつつあるという。

平成 6 年度文化庁優秀映画選定、第 36 回科学技術映像祭内閣総理大臣賞、他

14 : 40 5、「広がれアサザの夢～百年後にトキが舞う霞ヶ浦を～」

(65 分・2006 年) ナレーター 竹下景子

日本で 2 番目に大きな湖、霞ヶ浦・北浦。

首都圏の水がめとして周囲をコンクリートで固められる開発が始まった頃より水質汚染が進み、自然が大きく失われた。

かつての自然を取り戻そうと湖に自生する水草アサザ(浄化作用がある)をシンボルに立ち上がった“アサザ・プロジェクト。1995 年以来、流域の小・中学校、市民、企業、行政、農林水産業、林業関係者などを巻き込み大プロジェクトに発展し、21 世紀の循環型社会のモデルとして注目を集めるまでになった。

文部科学省選定、第 48 回科学技術映像祭 文部科学大臣賞

15 : 50 6、「平成 熊あらし～異常出没を追う～」(61 分・2009 年)

ナレーター 柳生 博

昨今、日本列島でクマが暴れている。豊かな森のシンボルだったクマが何故人里に出没するようになったのか・・・

2006 年度の捕獲数、5,185 頭。捕殺数は 4 千頭を超えた。(過去最高)

人間とクマの軋轢がこのまま続けば、やがて絶滅する地域が出てくるのではと専門家は懸念する。ツキノワグマの生態、保護活動、さらに日本の狩猟文化まで掘り下げ、解決の糸口を探った作品。

第 7 回文化庁 文化記録映画優秀賞、映文連アワード 2009 グランプリ、2009 年度キネマ旬報ベストテン

17 : 00 ( 終了 )